

SANDTM
TECHNOLOGY

SANDTM / DNATM の特徴



www.sand.com

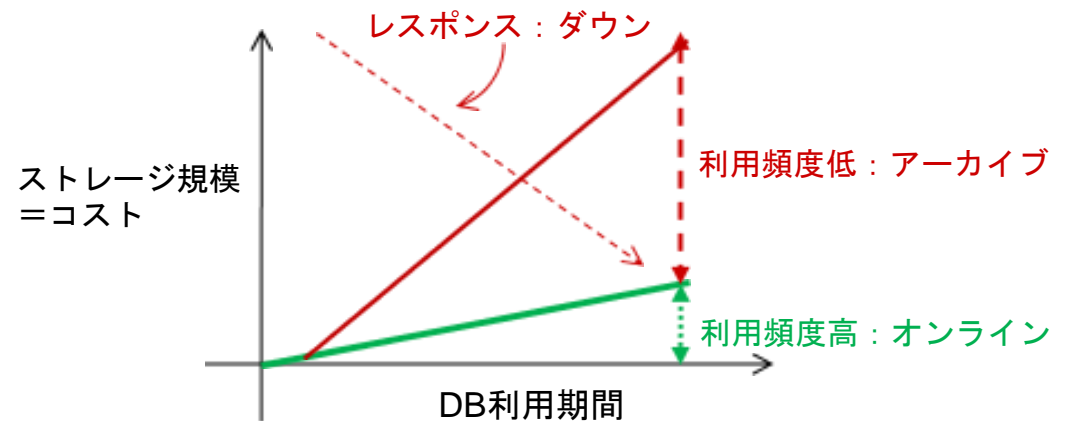
前提 データウェアハウスに対する期待と課題

データウェアハウスに対する期待:

- ビジネスモデルの変化や、業務システム(ERP,SCM,CRM等)の定着、RFID等のテクノロジーの変化に伴い企業内のデータが膨大となる
- 現在の経済環境の中、蓄積されたデータを、経営課題を捉える為の情報活用のニーズは高まっている
- その為に、セントラルウェアハウスの様なデータウェアハウスが必要

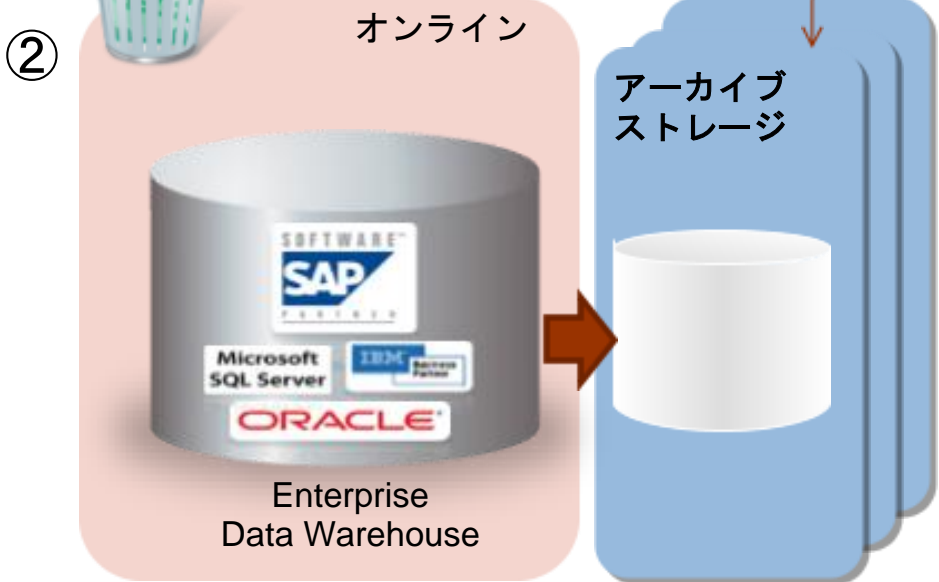
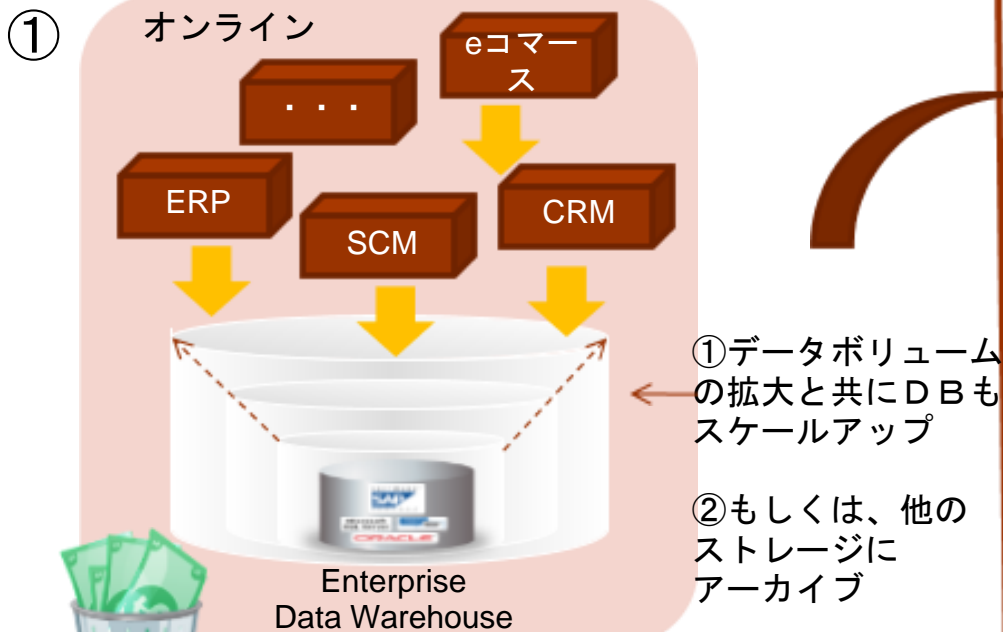
データウェアハウスの課題

- データボリュームが増大する為に、オンラインアクセスのパフォーマンス低下
- データボリュームが増大する為に、ユーザーの分析パフォーマンス低下
- データボリュームが増大する為に、維持・運用コストの増大
- データボリュームが増大する為に、システム運用が困難になる
- スケーラビリティを保つ為に、高価なストレージが必要
- コンプライアンスのリスク増大
- ビジネスのリスク増大

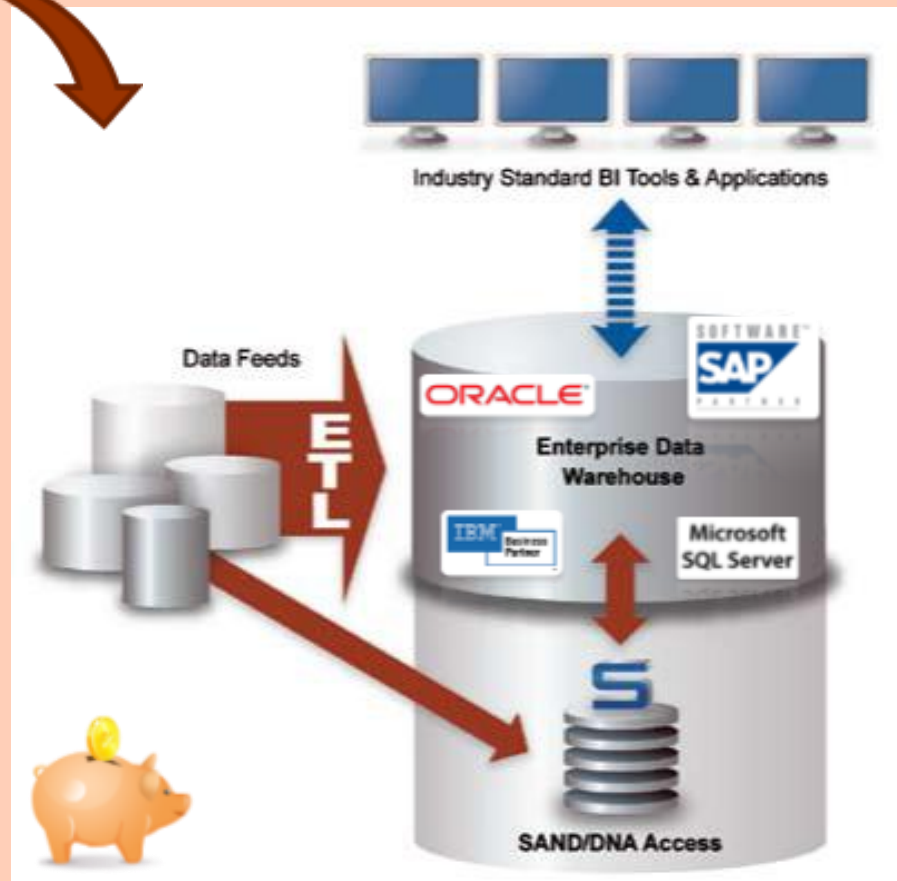


SAND/DNAの特徴

通常のデータウェアハウス運用



SAND/DNA Solution (Nearline)

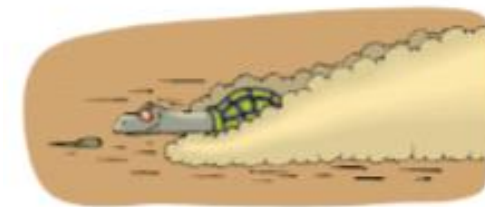


- ・ 利用性の高いデータはオンラインに残し、利用頻度が低い重要なデータはニアライン（圧縮しアクセス可能な状態）へ
- ・ アクセスパフォーマンスは落とさずに、低コストでデータの増大に対応可能

SANDの利点

• パフォーマンス

- データのロード時間の短縮
- 検索時間の短縮



• コスト

- ストレージコスト:高可用性、IOディスク、その他.
- リソースやDB管理のオーバーヘッド
 - システム：CPU, メモリ, 等
 - 運用人数：各ストレージやDBの運用要員等
- システム拡張のコントロール



• 有効性

- データの有効性 – 速いロールアップ, 運用変更等
- システムの有効性 – バックアップやアップグレード等の対応でも短時間で可能

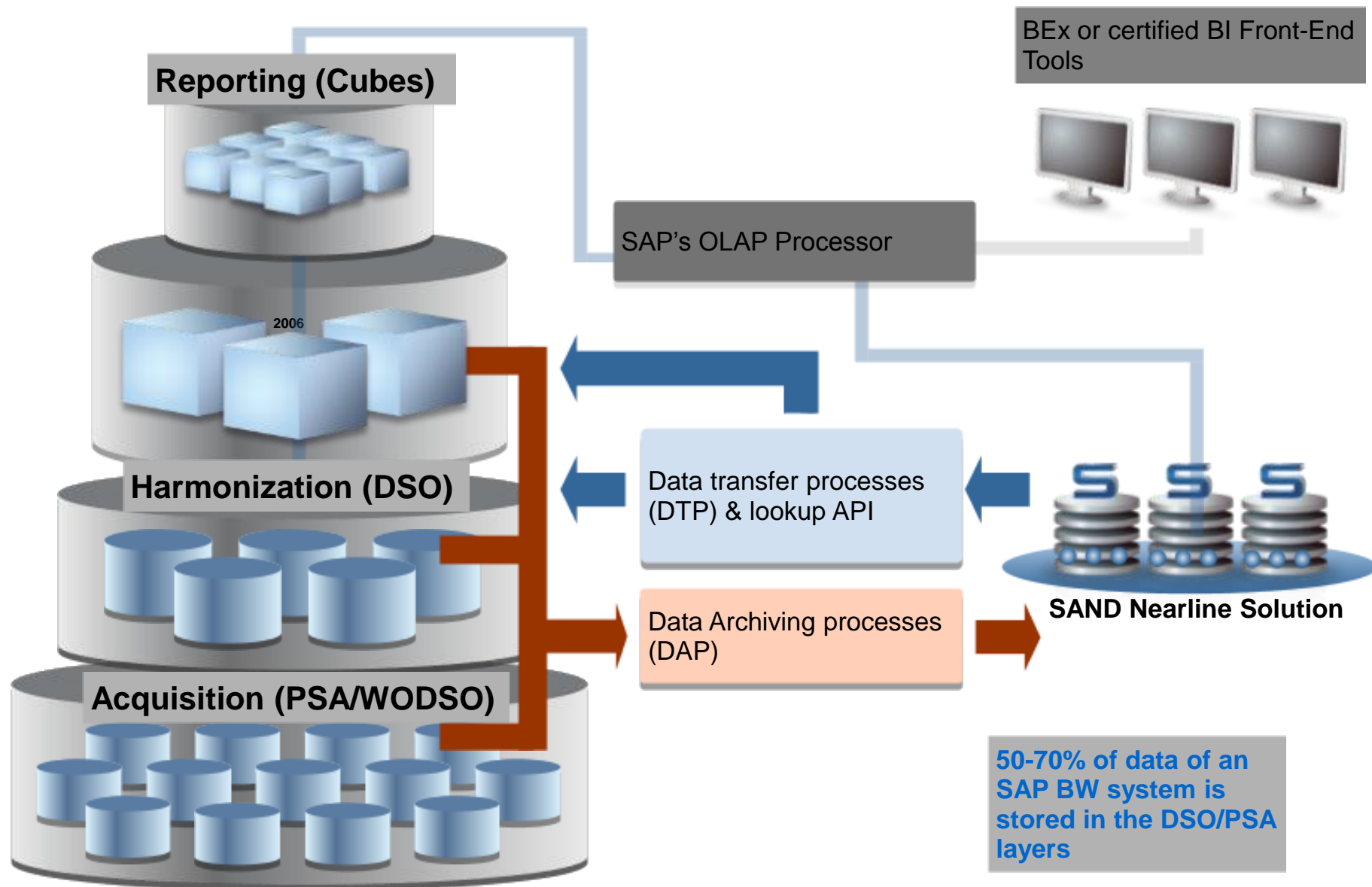


• 特にSAP BWユーザーには、有効

- SAPと共同開発でNearlineを実装

参考

SAP's Nearline Interface



Contact

お問い合わせ

ワークブレインジャパン株式会社



室長： 岩満 直樹

E-mail: sand@workbrainjapan.com

URL: www.workbrainjapan.com

郵便： 〒135-0063 東京都江東区有明3丁目7番26号
有明フロンティアビルB棟9階

電話： 03-5530-8316

Fax: 03-5530-8317

携帯： 090-4379-0398